

令和2年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	アカギ マサオ 赤木 正男 (対馬市)	アナゴかご漁業の餌を漁獲効率の高いスルメイカに切り換え、入手先も確保。途切れることのない安定した水揚げ体制を整備。また、高い品質保持や出荷先に応じた仕分け処理により浜買い人との信頼関係を構築し、独自の販売ルートを確認することで収益性の高い経営を実践し、地域の模範となっている。 PRイベントの開催やTV取材等を通じて対馬産アナゴの価格向上に取り組み、地域の活性化と漁業者の収益性向上に大きく貢献。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	カブシキガイシャ 株式会社 テンヨウマル 天洋丸 (雲仙市)	「水産資源の価値を高め、人々を笑顔にする」を会社のミッションに定め、幅広い情報発信や漁業体験、経営の多角化、魅力ある水産加工商品の開発、従業員の労働環境の改善、外国人技能実習生の地域交流等、多様な取組を展開。地域における諸課題の解決のため、多くの視野を持ち、様々な取組を実践する姿勢は他の模範となり、高い波及効果が期待される。
魅力ある 漁村地域部門	タカハマセンダン 高浜船団 (対馬市)	延縄とイカ釣の大型漁船の船主で構成する船団員が協力し、漁獲向上に向けた情報共有、周年操業や収益性を向上する漁法や機器等の導入、出荷規格の統一や活魚出荷、出荷調整による魚価向上により、高い水揚げ水準を誇る。成功した取組は他船団にも拡大するなど、地域を牽引する船団となっている。 若手を育成する環境を整え、育てた後継者は地区の祭りや清掃等の行事の中心となって漁村に活気をもたらしている。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	マツシタ ジュンヤ 松下 順也 (五島市)	平成28年に奈留地域で初めて経営計画を策定し、一本釣・曳縄漁業においてソナー導入による効果的な魚群探索、減速航行や出荷先の見直し等による経費の削減と魚価の向上に取り組み、所得を大幅に増大。 漁業経営改善のモデル事例として広く紹介され、既に取組は地域漁業者へ拡大しており、地区内外へのさらなる波及効果が期待される。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	ユウケンガイシャ 有限会社 マルトクスイサン 丸徳水産 (対馬市)	藻場の維持回復において障害となっているイソズミに着目し、効率的な魚体処理技術と独特な臭いを除去する加工法を開発。加工原料としての冷凍保存が可能となり、大量水揚げに対応できる体制を確立。流通していなかったイソズミを購入することで水揚げ意欲の向上に寄与。 開発したイソズミ(そう介)のメンチカツは、Fish-1グランプリで本県初のグランプリに輝き、魅力ある商品作りを通じた藻場回復活動のさらなる拡大が期待される。
魅力ある 漁村地域部門	カミゴトウウシヨク 上五島養殖まぐ ろ振興協議会 (新上五島町)	養殖クロマグロを活用した島おこしを目指し、町内の生産者や商工業者、飲食店が連携したロスが出ない販売方法の確立、解体ショーやフェアの開催、旅行会社とのタイアップ等を展開し、島内消費の拡大や観光客の増加に寄与。 今後、島内における取扱店舗の増加を目指しており、一年を通して上五島産養殖クロマグロが食べられる島として、さらなる島内需要の拡大、地域活性化が期待される。

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員会会長賞)

受賞者名	概要	
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	カブシキガイシャサンヨウ 株式会社三陽 マツウラエイギョウ 松浦営業所 (松浦市)	アジの水揚げ日本一を誇る松浦魚市場で水揚げされたマアジを使用し、高性能の機器を導入した工場こだわりのアジフライを製造。平成30年度からの松浦市の「アジフライの聖地」に向けたイベント等へ安定供給するとともに、独自の販路を開拓し、松浦産アジフライを広く販売。 同社の協力により「アジフライの聖地」宣言に繋がり、今後さらなる認知度の向上と地域活性化が期待される。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	ハコザキギョウギョウドウ 箱崎漁業協同組 アイジエイ、テイチ 合自営定置 (壱岐市)	江戸時代からの地域の伝統漁法である定置網を受け継ぎ、安定した水揚げにより漁協の経営安定に寄与しており、地域の貴重な雇用の場となっている。 長崎大学水産学部と連携し、地元高校生を対象に定置網の体験実習や水産業の講習等を実施しており、若者の漁業への理解を深めるとともに、漁業への就業促進にもつながり、地域の漁業後継者確保・育成に貢献。
魅力ある 漁村地域部門	シンマツウラギョウギョウドウ 新松浦漁業協同 クミアイ セイネンブ 組合青年部 (松浦市)	磯根資源の減少や赤潮の発生等による青年部員の危機感をきっかけに、平成25年から藻場保全活動を開始し、漁場の調査や有害生物の除去、レンガブロックを活用した海藻の増殖等、着実に成果を出し、短期間で藻場が大きく回復。 市販の安価な材料を用いる手法であるため汎用性が高く、他地区へ取組が広く普及することで、藻場回復の輪がさらに広がっていくことが期待される。